

分類：臨床医学アドバンスコース

授業科目名：精神科学（Psychiatry）

対象学年：4年次選択

時間割コード：71594003

開設学期等：第13週～第13週

単位数：0.5

1. 主任教員

三島 和夫（教授、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00）

2. 担当教員

三島 和夫（教授、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00）

竹島 正浩（講師、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00）

今西 彩（助教、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00）

細谷 倫子（助教、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00）

伊藤 結生（助教、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00）

藤原 大（医員、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00）

馬越 秋瀬（医員、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00）

渡邊 真由美（、精神科学講座 北臨床棟 4階、6122、オフィスアワー：9:00-17:00）

室岡 守（非常勤講師、秋田県立医療療育センター 副センター長）

北島 正人（非常勤講師、秋田大学教育文化学部地域文化学科 教授）

3. 授業のねらい及び概要（学修目標）

1. ねらい

精神障害の特徴は、中枢神経系高次機能の障害としての生物学的特性を有する点と、個人を取り巻く心理・社会的要素が環境因子としてその病態や臨床に影響するという点にある。したがって、生物・心理・社会という多面的なとらえ方が、精神障害の理解においては重要である。

本講義では、臨床現場において主な精神科疾患を多面的に理解し診療を実践していくため、疾患の状態把握・評価に必要な診察方法・評価尺度を習得する。

2. 概要（学修目標）

4・5年次必修講義、臨床実習で学んだ精神科学の内容を基礎にして、精神現象のスペクトラムをより実践的に理解し、その評価法の理論と実際について症例検討・実習等にて習得する。特に、以下の精神疾患の症状評価法とそれに用いる臨床評価尺度を説明できるようにする。

(1) 統合失調症

簡易精神症状評価尺度（Brief Psychiatric Rating Scale; BPRS）

(2) うつ病

ハミルトンうつ病評価尺度、Beck うつ病自己評価尺度

(3) 認知症

Mini-Mental State Examination(MMSE)、改訂長谷川式簡易知能評価スケール (HDS-R)

(4) 睡眠-覚醒障害

睡眠表、ピッツバーグ睡眠質問票 (Pittsburgh Sleep Quality Index:PSQI)、morningness-eveningness questionnaire (MEQ)、アクチグラフ、終夜脳波、multiple sleep latency test(MSLT)

(5) 神経発達障害

Wechsler Intelligence Scale for Children(WISC)、親面接式自閉スペクトラム症評定尺度テキスト改訂版 (PARS-TR)、Autism-Spectrum Quotient(AQ)、ADHD-Rating Scale(ADHD-RS)、The Conners' Adult ADHD Rating Scales(CAARS)

(6) 臨床心理学的検査法

Rorschach テスト、Wechsler Adult Intelligence Scale(WAIS)、Baum-tree テスト

4. 教科書・参考書

4年次精神科講義資料、診察実習時の資料（神経疾患診察法）OSCE クリニカルクラクシップガイドを常に参照できるようにすること。必要に応じて、診断・治療ガイドラインを参照、活用すること。

- ・標準精神医学(尾崎紀夫 他編 医学書院)
- ・カプラン臨床精神医学テキスト(井上令一 監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル社)
- ・医学専門雑誌、医学文献・活用を奨励する。

5. 成績評価の方法

レポート発表を行う。レポートは受け持ち患者さんについて指導医から指導を受けながら作成する。

レポート発表の内容を踏まえ、当該患者さんの現症、診断、治療方針等について試問を行う。実習中の服装、参加意欲、態度、理解度も含めて総合的に評価する。

6. 授業時間外の学習内容・その他・メッセージ

- ・指定教科書は事前に提示するので、予習して受講すること。
- ・指定教科書に授業の重要なポイントを記載するなどして学修すると、講義後の復習に役立つ。
- ・担当教員の予定により、若干スケジュール等を変更する場合がある。

講義内容・具体的到達目標・学修目標						
	開講月日	時限	授業形式	講義内容・具体的到達目標・学修目標	担当教員	場所
1	7月6日 (水)	5-6 時限	講義	テーマ：脳科学としての精神医学 精神疾患の病態生理仮説とその神経基盤および向精神薬の作用機序を理解する。	三島 和夫	精神科医局2
2	7月6日 (水)	7-8 時限	実習	テーマ：睡眠-覚醒障害の病態と診断/デバイス設定と装着 睡眠-覚醒の神経基盤を理解し、睡眠-覚醒障害の病態を説明できる。また、デバイスを用いた睡眠-覚醒の評価技法を理解する。	三島 和夫	精神科医局2
3	7月6日 (水)	9-10 時限	講義	テーマ：児童・思春期の臨床・評価法 神経発達障害の病態生理を理解し、その臨床評価尺度とその用い方を説明できる。	室岡 守	精神科医局2
4	7月7日 (木)	1-2 時限	実習	テーマ：知能検査・人格検査 神経発達障害、知的障害、人格障害の臨床評価尺度と用い方を説明できる。	渡邊 真由美	精神科医局2
5	7月7日 (木)	3-4 時限	講義	テーマ：記憶・記銘力検査 記憶の神経基盤を理解し、記憶力、記銘力の評価尺度と用い方を説明できる。	北島 正人	精神科医局2
6	7月7日 (木)	5-6 時限	講義	テーマ：統合失調症・気分障害・不安障害の評価法 統合失調症・気分障害・不安障害の病態生理を理解し、その臨床評価尺度と用い方を説明できる。	竹島 正浩	精神科医局2
7	7月7日 (木)	7-8 時限	講義	テーマ：認知症の評価法 記憶の神経基盤を理解し、認知症の評価尺度と用い方を説明できる。	三島 和夫	精神科医局2
8	7月7日 (木)	9-10 時限	講義	テーマ：摂食障害の診療と認知行動療法 摂食障害の症状、病態、診断法を理解し、認知行動療法の概略を説明できる。	馬越 秋瀬	精神科医局2
9	7月8日 (金)	1-2 時限	講義	テーマ：統合失調症の認知・社会機能評価法 統合失調症が与える認知・社会機能への影響を理解し、またその評価方法と用い方を説明できる。	藤原 大	精神科医局2
10	7月8日 (金)	3-4 時限	講義	テーマ：COVID-19や大震災など大きな社会事象における精神科医の役割 大規模災害や COVID-19 の拡大時に特有な精神医学的問題と支援法について説明できる。	伊藤 結生	精神科医局2
11	7月8日 (金)	5-6 時限	講義	テーマ：緩和ケア医療における精神科の役割 緩和ケア医療について理解し、精神的支援や他職種との連携等について説明できる。	細谷 倫子	精神科医局2
12	7月8日 (金)	7-8 時限	実習	テーマ：睡眠覚醒・意識レベルの評価 睡眠-覚醒の神経基盤を理解し、睡眠構造と覚醒度の評価法を説明できる。	今西 彩	外来脳波室
13	7月8日 (金)	9-10 時限	実習	テーマ：睡眠-覚醒障害の病態と診断/データマイニングと解釈 睡眠-覚醒特性の評価デバイスの使用法とデータ解析法について説明できる。	三島 和夫	精神科医局2